

# 特許製品「フロンキーパー」が好調に推移 アフターマーケットの拡大へ

新潟県中越地区、長岡を拠点に新潟県内全域を網羅するとともに、地域一番店の管工事業者として冷凍・冷蔵、空調設備で総合エンジニアリング業を展開するナンバ(社長＝難波昇一氏、本社・新潟県長岡市三島新保633-1)の2016年度は昨年に引き続き、主力のスーパーマーケット関連の店舗冷設ならびに配送センターや食品加工関連などにおいて安定的な推移を示している。



難波 昇一社長



難波 俊輔専務

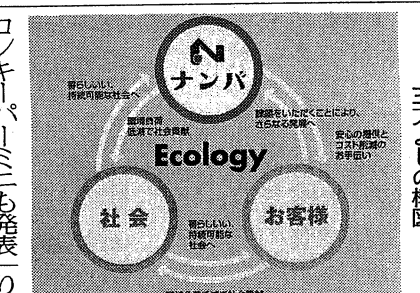
構図は変わらないものの首都圏再開発や五輪関連で一定規模の需要を抱えるゼネコンにおいては、地方でのこうした需要を手掛けることが薄まってきているのも事実。当面はこうした流れが続くものと予測される。

一方で、今ではその製品名が同社の代名詞とも成りつつある独自の開発製品「フロンガス漏洩検知システム・FreonKeeper(以下「フロンキーパー」)」は2011年に販売を開始し昨年には特許を取得した。

「フロンキーパー」は既存の設備機器に後付けでき、ガス漏洩の早期発見とフロンガスの大気放出を防止することを大きな目的としている。冷凍機や空調機の内部にパイプ管を設け、ポンプダウン時に液状でレシーバータンク内に回収した液状のフロンガスの量を液面の検知によって測定する、いわば「見える化」を実現させた製品。仮に液面の位置が基準値を下回った場合は漏えいしているものと判断し、メールで異常を知らせることもできる。さらに毎日、フロンガスの量を監視するなかで機器に異常が生じる前の段階にある凡そ15秒の漏えい時点を警報を発することもできる。

例えばCO<sub>2</sub>換算においては2000g、4000g倍のフロンガスを制御することになり、地球温暖化防止にも大きく貢献することができるとしている。既に導入実績は300台を超えており、近年は東京ビッグサイトにおいて開催されるスーパーマーケットトレードショーにおいてブース出展して積極的に認知・拡販を呼び掛けている。

さらに本社敷地に新たにNANBA Visibility(先見性)と名付けた研究棟を建設。さらなる進化に向けた開発にも注力している。今春開催した同展示会では後継機種としてフ



ロン排出抑制法を業界のビジネスチャンスと捉えるならば、従来の観念にあった漏えいによってサービスマン業務が生まれるという事では無く、漏らさない、逃がさない、確実に安全に回収することこそ、その後の顧客信頼と各地域でのホームドクターとしての役割が果たせるはずであり、この考えは当社が打ち出したガス漏れ対策も無償で行う10年保証へも繋がっている。むしろユーザー側の認知の方が先に進んでいる」とし、従来、市場として捉えてきたアフターマーケットをフロンキーパーの活用で新たな視点で拡大させていくことができるとして

難波昇一社長は「各地の設備業者の方に展示会への来場を呼び掛け、さらに先頃は当社まで足を運んでいただき、実際の開発経過や成果、効果などについても説明を行った。高い関心はあるものの、それぞれの実務における温度差があり、一長一短といったところだ。本来は昨年施行されたフ

「フロンキーパー」の今後の進化については産学連携などにより、さらに特許の幅を広げる動きもあり、来年開催されるスーパーマーケットトレードショーにおいて、お披露目となる可能性は高いと

ナンバが目指す今後のビジョンはナンバ、お客様、社会の構図においてナンバはお客様に対して安心の提供とコスト削減の手伝いを行い、また社会に対しては環境負荷低減で社会貢献。お客様はナンバに対して課題を提示することで、さらなる発展へ繋げる。またお客様は社会に対して環境負荷低減で社会貢献。社会はお客様ならびにナンバに対して暮らしの持続可能な社会を目指すことを提示するという「三方よし」の精神で実務を遂行していくとする。

ナンバは冷凍冷蔵設備業者としての顔とともに、メンテナンス事業に特化するナンバ冷機サービス、フランス・hengei社のショックフリーサーの輸入・販売を行